

## ②地質年代表 リンク p.13

代 紀	先カンブリア時代		古 生 代							中 生 代			新 生 代					
	始生代	原生代 カンブリア紀	オルドビス紀	シルル紀	デボン紀	石炭紀		二疊紀	三疊紀	ジュラ紀	白亜紀	古第三紀 暁新世	新第三紀 始新世	第四紀 漸新世	中新世 中新世	鮮新世 更新世	更新世 完新世	
年代	約460,000(万年前)		54,200	48,800	44,400	41,600	35,900	29,900	25,100	20,000	14,500	6,600	2,300	260	1			

## ③世界の大地形 リンク p.13~15

	特　　色	おもな分布地域
安定陸塊	先カンブリア時代に造山運動をうけた後は、広範囲のゆるやかな造陸運動しか見られない安定した地域。非常に長い期間にわたる侵食作用により広大な平原や高原などの地形になっている。大規模な鉄鉱床が分布、ダイヤモンドなどを産出するところもある。	①ローレンシア橋状地(セントローレンス河谷からハドソン湾一帯) ②ゴンドワナ大陸(アフリカ・アラビア・インド・オーストラリア・南アメリカなどの大陸塊) ③中国陸塊(中国の東北地域から朝鮮半島、華南にかけての地域) ④シベリア草状地(中部シベリアの地域) ⑤バルト橋状地(スカンディナヴィア半島からフィンランドにかけての地域)
古期造山帯	古生代の造山運動によって形成された山地地域。長い期間にわたる侵食作用により、なだらかで高度の低い山地となっているところが多い。石炭紀の地層が含まれ、大炭田が分布する。	①カレドニア山系(スカンディナヴィア山脈からスコットランドにかけての山系) ②ヘルシニア山系(アイルランド南部からフランス北西部を経てフランス中央高地に達するアルモリカン山系と、ヴォージュ山脈・エルツ山脈・ステティ山脈などのパリスカン山系がある。) ③ウラル山脈 ④ア巴拉チア山脈 ⑤ドラケンスバーグ山脈 ⑥グレートディヴァイディング山脈 ⑦アルタイ山系(パミール高原から北東に連なる、テンシャン・アルタイ・サヤン・ヤブロノヴィなどの山脈)
新期造山帯	中生代末から新生代を通じて活動してきた地域で、地盤が不安定で、地震帯・火山帯とも一致している。高くて険しい山脈や細長い弧状列島が連なる。背斜構造部には石油や天然ガスが分布する。	①アルプス=ヒマラヤ造山帯(アトラス山脈・ピレネー山脈・アルプス山脈からヒマラヤ山脈。さらにスマトラ島・ジャワ島などの島々にかけての地域) ②環太平洋造山帯(ロッキー・アンデスのコルディレラ山系、アリューシャン列島・日本・フィリピン・ニューギニア島・ニュージーランドにかけての太平洋を取りまく地域)

## ④平野の種類 リンク p.14, 15, 17~19

侵食平野	構造平野	●古い地質時代(古生代・中生代)に堆積した地層が、ほぼ水平の状態のまま侵食されて形成された、高度が低く、起伏がきわめて小さい波状地または平坦地をいう。 ●硬層と軟層が重なり合ってゆるやかに傾斜している場合、軟層は侵食がはやく進み、硬層は遅れる。このような侵食の違いで生まれた丘陵状の地形をケスタ地形といい、急崖と緩斜面とが交互に配列している。 ●水平な硬層が侵食から取り残されてテーブル状の地形になったものをメサといい、小規模で塔状に孤立しているものをビュートという。	アメリカの中央平原、ヨーロッパロシアの平野、オーストラリアの中央平原、パリ盆地、ロンドン盆地
	準平原	●侵食輪廻の最終段階の地形で、長い期間にわたる侵食作用により山地の地表面の起伏が失われ、波浪状の起伏の小さくなった侵食地形をいう。侵食から取り残され、準平原上に高く突出した丘状の地形を残丘(モナドノック)という。準平原が隆起し、侵食の復活が見られる地形を隆起準平原といい、ニューイングランド準平原や北上高地、阿武隈高地、吉備高原などがその例とされる。	西シベリアのセミパラティンスク付近 リヤオトン(遼東)半島
堆積平野	沖積平野	●河川の堆積作用によって形成された平野をいう。一般に平野の規模は小さく、土地は肥沃であることが多いため、古くから農耕が行われ居住地によく利用してきた。日本の平野のほとんどは沖積平野である。谷底平野・扇状地・自然堤防・後背湿地・三角州などの地形が見られる。	甲府盆地 松本盆地 山形盆地 琵琶湖西岸
		●河川が山地から平地に出る谷の出口に、運搬してきた砂礫が堆積することでつくられる扇形の地形。地形図では等高線がほぼ同心円状(扇形)に描かれる。 ●水はけが良いため水量の少ない河川では、扇尖部で伏流し水無川になっていることが多い。扇尖は畑や果樹園として、また扇端は伏流水が湧水となってあらわれるため、水田が発達し、集落が立地しやすい。	ナイルデルタ(円弧状) 太田川(円弧状) ミシシッピデルタ(鳥趾状) テヴェレデルタ(尖状)
	三角州	●河川が河口部で流速を失い、運搬してきた泥土が堆積することで形成されたきわめて低平な地形。泥土の堆積・運搬力と波や沿岸流の侵食力との強弱関係から鳥趾状・尖状・円弧状に分類される。 ●河川に沿って自然堤防(洪水によって砂などが堆積し、河川に沿うように形成された微高地)などの地形が見られる。	常総台地、下総台地、武藏野台地、牧ノ原台地
洪積台地	河岸段丘	●更新世(洪積世)につくられた扇状地や三角州などが、その後の地盤の隆起や海面の低下によって周囲より一段高い台地となった地形の総称。洪積台地の多くは厚い火山灰に覆われ、小さな谷が刻まれている。扇状地が高位の台地となったものを隆起扇状地(開析扇状地)、三角州が台地となったものを隆起三角州(開析三角州)という。 ●河川に沿って見られる階段状の地形。段丘面は旧河床である。	天竜川、片品川、相模川

## ⑤海岸の地形 リンク p.20, 21

離水(隆起)海岸	海岸平野	●浅い海底の堆積面が地盤の隆起や海面の低下によって海面上にあらわれ、形成された平野。海岸線に沿って細長い浜堤や海岸砂丘などの砂地形が見られる。遠浅のため掘り込み港を設けるところが多い。	仙台平野、九十九里平野、宮崎平野、アメリカの大西洋岸平野
	海岸段丘	●海岸線に沿って見られる階段状の地形。海底に形成された平らな海食棚(海食台)が地盤の隆起や海面の低下によって離水し陸地化したもの。この運動が繰り返されることによって、階段状の地形が形成される。	高知県の室戸岬 青森県の鰹ヶ沢 北海道の襟裳岬
沈水(沈降)海岸	リアス海岸	●山地が沈水して形成された、岬と入り江が複雑に入り組んだ海岸。深く入り込んだ湾内は波おだやかで水深は深く、養殖業や漁港が発達している。しかし、平地に乏しく、交通も不便なところが多く、地震のときは津波の被害をうけやすい。	三陸海岸 若狭湾 志摩半島
	フィヨルド	●高緯度地方の氷食谷(U字谷)が沈水して形成された奥深い湾。 ●急な谷壁に囲まれ、水深は大きい。峡湾とも呼ばれる。陸上交通が不便である。	ノルウェー、チリ南部、ニュージーランド南島
	エスチュアリー(三角江)	●起伏が小さい平野部の河川の河口が沈水してきた、潮流の影響を受けやすいラッパ状の入り江。 後背地が広い平野であり、大きな港湾都市が発達しやすい。	テムズ川・セントローレンス川・エルベ川

## ⑥海岸の小地形 リンク p.20, 21, 210

海岸砂丘	●波で打ち上げられた砂が、内陸側に向かう風によって運ばれ、堆積して生じた小高い丘状の地形。一般には海岸線に沿って細長く形成される。砂丘は風によって絶えず移動、変形する。 ●砂丘近くの耕地や集落などは、風による飛砂の被害を受けやすい。飛砂を防ぐために、防砂林や防砂垣などがつくられる。 ●鳥取海岸をはじめ日本海沿岸の砂浜海岸や、九十九里浜・鹿島灘・遠州灘などに見られる。
沿岸州	●海岸線に沿ってほぼ平行に発達する砂地形。遠浅の海岸では、波によって砂が堆積し、州が形成されることがある。陸地と沿岸州との間に潟湖(ラグーン)がつくられることがある。アメリカの大西洋海岸からメキシコ湾岸にかけて、その典型的な例が見られる。
砂嘴	●海岸から嘴状に細長く突き出た砂礫の堆積地形。戸田湾・三保松原・北海道の野付崎・アメリカのコッド岬などにその例が見られる。
砂州	●砂嘴が成長し、対岸近くまで直線状にのびた地形。ついには湾口をふさぎ潟湖(ラグーン)をもつようになることもある。天橋立(京都)・弓ヶ浜(鳥取)・サロマ湖(北海道)などにその例が見られる。
陸繋島	●沖合いの島が砂州によって陸続きとなったもの。島をつないだ砂州を陸繋砂州(トンボロ)という。江の島・潮岬・志賀島・函館山などにその例が見られる。

## ⑦その他の特色ある地形 リンク p.22, 23, 32, 152, 158, 198, 202

カルスト地形	●石灰岩の溶食地形で、雨水や地下水中に含まれる炭酸ガス(二酸化炭素)によって、石灰岩の主成分の炭酸カルシウムが溶かされることができる。温暖・湿潤な気候地域で、地下水の動きが活発な台地や山腹に形成されやすい。地下には洞穴が、地表には不規則な凹地ができる。スロベニア南西部のアドリア海沿岸のカルスト地方にこの地形が典型的に見られるため、一般に石灰岩のこの種の地形をカルスト地形と呼ぶようになった。		
	カレンフェルト	地表部において石灰岩が溶食され、石塔(ピナクル)が林立したように見える原野。	
	ドリーネ	地表部にできるすり鉢状の凹地。石灰岩の割れ目に雨水がたまって溶食されたり、鍾乳洞の天井が陥没したりしてできる。	
	ウバーレ	ドリーネがいくつか結合してできた凹地。溶食が進むと連続する丘陵状の地形が発達する。	
	ポリエ 鍾乳洞	ウバーレが発達して大きくなったり盆地状の凹地で、平坦な底部に集落や耕地が見られる。 地下に見られる溶食洞で、石筍・石柱・鍾乳石などの地形が見られ、洞穴内には地下水が流れる。	
氷河地形	●氷河の侵食作用や堆積作用によって形成された地形。氷河時代には、低緯度地方では3,500~4,000m、中緯度地方では2,500~3,500mを超える山地に山岳氷河が、高緯度地方では広く低地にまで氷床(大陸氷河)が分布していた。		
	氷河湖	氷河によって削られた凹地に水がたまつた湖。モレーンの堰き止めによっても生ずる。北アメリカや北ヨーロッパに多く見られる。五大湖はその典型例である。	
	氷食谷(U字谷)	谷氷河が後退した後に見られる、氷食によってできたU字型の谷。	
	カール(圓谷)	山頂近くに見られる半楕円状の凹地。日本では飛騨・木曽・赤石山脈や日高山脈などに見られる。	
	モレーン(堆石)	氷河が削り運んできた岩屑や土砂、およびそれらの堆積地形。	
	エスカーエ フィヨルド(峠湾)	氷河の底を流れる融水水が、トンネル内に砂礫を堆積してつくった細長い堤防状の地形。 氷食谷が沈水して、海水が浸入してできた奥深い入り江。	
サンゴ礁	●サンゴ虫や石灰藻類などの石灰質の骨格・殻などをもつ造礁生物が集まって形成した岩礁。低緯度地方の暖海域の水のきれいな浅海に発達する。据礁・堡礁・環礁などがある。		
	据礁	海岸に接して発達した礁。沖縄に多く見られるのはこのタイプである。	
	堡礁	礁が沖合いに発達して、海岸と礁の間にラグーン(礁湖)が形成されている礁。グレートバリアリーフ(大堡礁)が代表的。	
環礁	中央に島がなく環状に発達した礁。ビキニ環礁・ムルロア環礁などがその例である。		
乾燥地形	●乾燥気候の下で風化作用や風の作用によってつくられた地形の総称。まれに降る豪雨のときだけ水が流れるワジや湿潤地域に水源をもつ外来河川のほか、蒸発が盛んなため塩分濃度が高い塩湖、台地状のメサや塔状のピュートなども見られる。		
	砂砂漠(エルグ)	見渡す限り砂丘が連なる砂に覆われた砂漠で、割合は世界の砂漠の20%程度。タクラマカン砂漠など。	
	砾砂漠(レグ)	風化が進み小さな礫に覆われた砂漠で、サハラ砂漠では砾砂漠をレグ、岩石砂漠をハマダと呼んでいる。	
岩石砂漠(ハマダ)	基盤岩や大きな岩石が露出している砂漠。砾砂漠と合わせて世界の砂漠の約80%を占める。		

## ⑧風の種類 リンク p.24, 25, 39

恒常風	貿易風	中緯度高圧帯から赤道低圧帯に向かって吹く。地球の自転によって南半球では南東風、北半球では北東風となる。熱帶偏東風ともい、特に海洋上で卓越する。
	偏西風	中緯度高圧帯から高緯度に向かって吹く西寄りの風。極偏東風との間に寒帶前線をつくる。
	極偏東風	極高圧部から吹く東よりの風。寒帶東風または周極東風ともいう。
モンスーン(季節風)	大陸と海洋の気圧配置の季節変化により、夏と冬で風向きがほぼ反対になる風。	
熱帯低気圧	台風	太平洋の低緯度地方で発生し、東アジアを襲う。日本では17.2m/s以上の暴風雨をともなう熱帶低気圧を指す。
	ハリケーン	主としてカリブ海付近で発生し、メキシコ湾岸地域を襲う。一般に風速32.7m/s以上のものをいう。
	サイクロン	インド洋上で発生し、南アジアやマダガスカルを襲う。オーストラリア東海岸を襲うものもこの名で呼ばれる。

局地風	フェーン	アルプス山脈北斜面を吹き降りる高温乾燥の風。湿润な気流が山地にぶつかると風上斜面に雨や雪を降らせ、風下斜面を下るととき高温乾燥となる。同種の気象現象を一般にフェーン現象と呼ぶ。
	チヌーク	ロッキー山脈東斜面を吹き降りる高温乾燥の風。
	ボラ	冬季にアドリア海沿岸に吹き降りる寒冷な北東風。
シロッコ	ブリザード	北アメリカ北部や極地方の吹雪をともなう寒冷な風。
	ハルマッタン	サハラ砂漠の乾燥した熱風が海上で水分を吸収し、湿润となり、時として砂嵐をともなう。
	スホベイ	初夏から夏に中央アジアの砂漠地帯からヨーロッパロシア南西部に吹く高温乾燥の東寄りの風。
やませ(山背)	梅雨から夏の間にオホーツク海気団からおもに東北地方の太平洋岸に吹く冷湿な北東風。稻作などに冷害をもたらす。	

## ⑨土壤の種類 リンク p.26, 27, 35, 68, 69, 73

成帯土壤	ラトソル	熱帯・亜熱帯地域に分布する酸化鉄や酸化アルミニウムを多く含む赤色土。腐植に乏しく肥沃でない。
	赤黄色土	温帯から熱帯の常緑広葉樹林地域に分布する。土壤中の水分が多い地域では黄色土となる。肥沃でない。
	褐色森林土	温帯の湿潤な落葉広葉樹林～混交林のもとに分布する土壤。腐植に富み、肥沃。農業に適している。
	ポドゾル	冷帯のタイガ地帯に分布する。土壤中の化学作用により灰白色の層をもつ酸性の強い土壤で、肥沃でない。
	ツンドラ土	ツンドラ地帯に分布する有機物の分解が不十分な土壤。低温なため蒸発量が少なく、常に多湿状態にある。
半乾燥土壤	プレーリー土	北アメリカのプレーリーに分布する肥沃な黒色土。
	チエルノーゼム	ウクライナから西シベリアに分布する腐植に富む肥沃な黒色土壤。小麦やトウモロコシ栽培などが盛んで、世界の穀倉地帯を形成する。

間帯土壤	砂漠土	植物被覆に乏しく腐植がほとんどないため、肥沃でない。蒸発が盛んなため、表層には塩類が集積しやすい。
	栗色土	ステップ地域に分布する。肥沃ではあるが、降雨が少ないため、農耕を行うには灌漑が必要となる。
	テラロッサ	石灰岩の風化でできた赤色の残留土壤。地中海沿岸に分布し、荒涼なカルスト地形のなかでは肥沃なため、耕地に利用される。
	テラローシャ	玄武岩や輝緑岩が風化した赤紫色の土壤。ブラジル高原南部のパラナ州などに分布。コーヒー栽培に適している。
	レグール土	玄武岩の風化した肥沃な黒色土。デカン高原に分布。綿花栽培に適するため、黒色綿花土とも呼ばれる。
	レス(黄土)	アメリカの中部・ウクライナ・ハンガリー盆地やホンツー(黄土)高原などに分布する黄灰色の風積土。
	火山灰土	火山噴出物の風化でできた土壤。関東ロームや南九州のシラスなどが代表的。

## ⑩気候区の特色と分布 リンク p.25~43

気候区	特 色	产 業	分 布
熱帯雨林気候(Af)	年中高温多雨。短時間に強く降るスコールが見られる。日射が強く、年較差にくらべて日較差が大きい。多種多層の常緑広葉樹からなる雨林が発達。酸化鉄や酸化アルミニウムを含む、肥沃ではないラトソル(赤色土)が分布。	キャッサバやタロイモなどを栽培する伝統的焼畑農業やゴム・カカオ・油ヤシなどを栽培するプランテーション農業。	赤道をはさみ緯度5~10°の地域。アマゾン盆地、コンゴ盆地、インドネシア、マレー半島南部
弱い乾季のある熱帯雨林気候(熱帯モンスーン気候)(Am)	雨季と弱い乾季がある。夏のモンスーンが多量の雨をもたらす。乾季に落葉する広葉樹林(雨緑林)を形成。ラトソルと赤黄色土が分布。	アジアでは特に稻作が盛ん。サトウキビ・バナナ・茶などのプランテーション農業。	アマゾン川河口、ギニア湾岸、ミャンマー南部、インド南西部、フィリピン北西部、フロリダ半島
サバナ気候(Aw)	雨季と乾季が明瞭。丈の長い草原にアカシアやバオバブなどの樹木が生える地域で、乾季には草は枯れ、樹木は落葉する。ラトソルや赤黄色土が分布。	焼畑農業のほか綿花・コーヒー・サトウキビなどの農園が見られ、アジアでは灌漑による稻作が盛ん。	熱帯雨林気候の周辺地域、デカン高原、ブラジル高原、インドシナ半島、オーストラリア北部、カリブ海沿岸
砂漠気候(BW)	蒸発量が降水量を上回り乾燥。気温の日較差がきわめて大きい。降雨時だけ水の流れるワジ(涸れ谷)が見られる。アルカリ性の強い砂漠土が分布。	オアシスでは農業や牧畜が営まれ、カナート・フォガラなどの地下水路が建設されている。	サハラ・ゴビ・タクラマカン・カラハリなどの砂漠、アラビア半島、オーストラリア内陸部、アメリカ西部
ステップ気候(BS)	降水量は250~500mm程度で、丈の短い草原(ステップ)が見られる。チエルノーゼム(黒色土)や栗色土が分布。	遊牧、企業的牧畜、灌漑による小麦の大規模栽培。	砂漠の周辺地域、グレートプレーンズ、パンパ西部、ウクライナ
地中海性気候(Cs)	冬は偏西風や温帯低気圧の影響で降雨にめぐまれるが、夏は中緯度高圧帯に覆われるため乾燥する。耐乾性の硬葉樹が多い。地中海沿岸にテラロッサが分布。	地中海式農業が発達。オリーブ・レモン・ブドウ・オレンジ・冬小麦などの栽培と家畜の飼育。	地中海沿岸地域、カリフォルニア、チリ中部、オーストラリア南部、南アフリカ共和国南部
温暖冬季少雨気候(Cw)	モンスーンの影響で夏に雨が多く高温となり、冬は乾燥する。カシ・クス・シイなどの常緑広葉の照葉樹が分布。	農業に適し、米・茶・小麦・綿花・トウモロコシなどの栽培が盛ん。	サバナ気候周辺、華北・華南、ヒンドスタン平原、インドシナ半島北部
西岸海洋性気候(Cfb・Cfc)	偏西風と暖流の影響で緯度の割には年中温和である。ブナ・ナラなどの落葉広葉樹のほか針葉樹も見られる。	混合農業や酪農が発達。商工業も発達し世界的な工業地域を形成。	西ヨーロッパ、ニュージーランド、チリ南部、オーストラリア南東部

温暖湿潤気候 (Cfa)	夏は高温で降雨が多く、多湿である。東アジアではモンスーンがよく発達し、四季は明瞭。常緑広葉樹や落葉広葉樹と針葉樹の混生林が見られる。褐色森林土が分布。	混合農業や商業的農業が発達。アジアでは稲作が盛ん。工業も発達し生産力が高い。	アメリカ中東部、日本の大半、オーストラリア東部、パンパ東部
冷帯(亜寒帯)温潤気候(Df)	夏は短いが気温は比較的高い。南部に広葉樹と針葉樹の混生林、北部には針葉樹林帯(タイガ)が広がる。褐色森林土やボドゾルが分布。	夏の温暖と降雨を利用し、春小麦・ライ麦・ジャガイモなどを栽培。タイガ地帯では林業が盛ん。	カナダ、シベリア中部からヨーロッパ東部、カムチャツカ半島、北海道
冷帯(亜寒帯)冬季少雨気候(Dw)	冬の寒さが厳しく、北半球の極寒の地。冬は晴天が多く乾燥。気温の年較差が大きい大陸性の気候。針葉樹が広がり、ボドゾルが分布。	南部で大豆・コウリヤン・春小麦・ジャガイモなどの栽培。林業が盛ん。	シベリア東部、中国東北地方、朝鮮半島北部
ツンドラ気候(ET)	夏に凍土層の表面が融け、地衣類・蘚苔類が育つ。地下には厚い永久凍土層がある。ツンドラ土が分布。	サミ人やイヌイットの遊牧・狩猟生活。	北アメリカ北部、ユーラシア大陸の北部、グリーンランド沿岸部
氷雪気候(EF)	年中氷雪が見られ、氷床が発達している。非居住地域。	植物は見られない。	南極大陸、グリーンランド内陸部
高山気候(H)	気温の通減率(100m増すごとに0.5~0.6℃の割合で低下)により、低緯度の高地では1年中温かな気候となる。低い気圧、強い風と日射、激しい気温の変化が特徴。	高度差を利用した農牧業の発達。低緯度の高原には保養都市が発達。交通は不便。	アンデス高原、チベット高原、東アフリカの高原の一部

## ⑪世界の農牧業地域の区分 リンク p.56~79

区分	特徴	おもな分布地域
自給的農業	遊牧	ユーラシア大陸内陸部から西アジア・北アフリカにかけての乾燥地帯、シベリア・アラスカ・カナダの極北地方
	焼畑農業	アフリカ中南部、東南アジア、東アジア、中央・南アメリカの熱帯地帯
	オアシス農業	ユーラシア大陸内陸部から西アジア・北アフリカにかけての乾燥地帯
	アジアの伝統的農業	東アジア、東南アジア、南アジア(稻作農業)。中国の東北部、インドのデカン高原(畑作農業)
商業的農業	混合農業	西ヨーロッパ、アメリカのトウモロコシ地帯、アルゼンチンの湿润パンパ
	地中海式農業	地中海沿岸地方、カリフォニア、チリ中部、南アフリカ共和国南部
	酪農	北西ヨーロッパ、イスラエル、オーストラリアの山岳地域、五大湖周辺地域、オーストラリア南東部、ニュージーランド
	園芸農業	アメリカの大西洋岸、ロンドン・パリの周辺、オランダ、日本の太平洋岸・高冷地
大規模な企業的農業	企業的穀物農業	北アメリカのプレーリー、アルゼンチンのパンパ、オーストラリアの南東部
	企業的牧畜	アメリカの西部、オーストラリアの内陸部、アルゼンチンの乾燥パンパ
	プランテーション農業	東南アジア、南アジア、中央・南アメリカの熱帯・亜熱帯地域、アフリカの熱帯・亜熱帯地域
集団的農業	集団制農業	

## ⑫森林の種類と特色 リンク p.26~28, 30, 40, 47, 53, 82, 83, 180

熱帯林	熱帯雨林	●赤道に最も近い地域の高温多雨の地域に見られ、アマゾン川流域・コンゴ川流域・東南アジアなどに広がっている。各種の常緑広葉樹林が生育し、最上部には50mを超える巨木の樹冠が連なり、その下に20~40m前後の高木が、さらにその下に10m前後の木々が茂っている。高木の下には、つる植物や樹木に密着する着生植物が見られる。下草は少ない。	●家具として利用価値の高いマホガニー・シタン・コクタン、船舶材として利用されるチーク、家具材や合板材としてよく利用されるラワンなどが見られる。 ●樹種が複多なことや交通条件が悪いなど不利な条件をもっている。
	雨緑林	●熱帯雨林地域と同じく高温多雨の地域に見られるが、季節風の影響を受けて短い乾季のある地域に分布する。熱帯雨林に比べ巨大高木は少ない。雨季には緑につつまれるが、乾季に高木は落葉する。乾季には太陽光線が地面にまで達するため下草がよく茂っている。	
温帯林	暖帯林	●ツバキの葉のように葉が革質で厚くて光沢のある常緑広葉の照葉樹と、オリーブやコルクガシのように乾燥に強く硬い葉をもつ硬葉樹に分けられる。おもにアジア東部や北アメリカ東部地域、地中海沿岸地域に分布する。	●カシ・シイ・クス・オリーブなどの常緑広葉樹や、ブナ・ナラ・クリなどの落葉広葉樹が見られる。 ●温帯北部には、アカマツ・スギ・モミ・ヒノキなど常緑針葉樹との混合林が見られる。
	混合林	●高緯度の地域では混合林となり、常緑針葉樹林と落葉広葉樹林が見られる。早い時期から伐採されたこともあって自然林が少なくなり、植林が行われ人工林が多く見られる。ドイツ・フランスなどでは19世紀から計画的な用材林育成が行われている。	
冷帯林	タイガ	●タイガはロシア語で針葉樹林を意味する。北半球の大陸北部に分布する。軟木の針葉樹が純林をなし、パルプや建築材としての利用価値が高い。世界で最も重要な林業地域となっている。北部の針葉樹林帯を黒タイガ、南部の混合林からなる森林を白タイガと呼ぶこともある。	●モミ・エゾマツ・トウヒ・カラマツなどの軟木の針葉樹林が見られる。 ●カナダの太平洋岸・フィンランド・スウェーデン・ロシアなどで林業が盛ん。

## ⑬おもな炭田・油田 リンク p.88~93, 102, 105, 106, 108, 111, 112, 114~117

国名	炭田	特色
アメリカ	ア巴拉チア炭田	ア巴拉チア山脈西麓のアメリカ最大の炭田。良質の強粘結性の瀝青炭を産出する。
	東部中央炭田	イリノイ・インディアナ州を中心に広がる炭田。ミシガン湖岸の工業発展の基盤となる。
ロシアと周辺諸国	ドネツ(ドンバス)炭田	ウクライナのドネツ丘陵に広がる世界有数の炭田。クリヴォイログの鉄山と結び付く。
	クズネツク(クズバス)炭田	ロシア最大の炭田。良質の瀝青炭を産出し、クズネツク工業地域の基盤となる。
イギリス	ヨークシャー炭田	ペニン山脈東麓に分布。ヨークシャー工業地域発展の基盤。中心都市はリーズ。
	ランカシャー炭田	ペニン山脈西麓に分布。開発が早く出炭量は少ない。綿工業発展の基盤となる。
フランス	北フランス炭田	北東部に分布。フランス最大の炭田。
ドイツ	ルール炭田	西ヨーロッパ最大の炭田。良質の瀝青炭を産出し、ルール工業地域発展の原動力となる。
	ザール炭田	ドイツ2位の炭田。かつてロレーヌ鉄山と結合。
	ザクセン炭田	ドイツ東部にある炭田。褐炭の産出が多い。
ポーランド	シロンスク炭田	東欧最大の炭田。同国工業地域の基盤。
中国	フーシュン炭田	中国最大の炭田。露天掘りで知られ、アンシャンの鉄と結び付く。
	カイロワン炭田	粘結炭を産出。ベキン・テンチンへ供給。
インド	ダモダル炭田	同国最大の炭田。シングブルームの鉄と結合。
オーストラリア	モウラ炭田	クイーンズランド州。日本や中国にも輸出。

国名	油田	特色
アメリカ	内陸油田	パイプラインで北東部へ送油。近年枯渇気味。
	メキシコ湾岸油田	同国2位の油田。海底油田の開発も進む。
	カリフォルニア油田	カリフォルニア州の油田の総称。
	ブルドーベイ油田	アメリカ最大の油田。パイプラインでヴァルディーズ港へ。
ロシアと周辺諸国	バクー油田	19世紀後半に開発。カスピ海西岸に分布。
	ヴォルガ・ウラル油田	同国2位の油田。革命後に開発された。
	チュメニ油田	現在ロシア最大の油田。西シベリア低地に分布。
カナダ	ロッキー山地油田	アルバータ州に分布。アメリカ資本で開発。
イラン	ガチサラーン油田	ザグロス山脈に分布。カーグ島から輸出。
クウェート	ブルガム油田	世界2位の埋蔵量をもつ巨大な油田。
サウジアラビア	ガワール油田	世界最大の油田。アラムコによって開発。
	アブカイク油田	同国2位の油田。1940年より開発。
アルジェリア	ハシメサウド油田	1956年から探掘。おもにフランスへ輸出。
リビア	エジェレ油田	リビア国境付近に分布。
メキシコ	ゼルテン油田	リビア最大の油田。良質な低硫黄原油
	レフォルマ油田	1970年代に発見された同国最大の油田。
ベネズエラ	ポサリカ油田	メキシコ湾岸に分布する同国2位の油田。
中国	マラカイボ油田	同国最大の油田。蘭嶼アルバ島などで精油。
インドネシア	ターチン油田	1960年から開発。埋蔵量同国2位。
	ションリー油田	ホンホー河口付近に分布。中国最大の埋蔵量。
イギリス	ミナス油田	スマトラ島に分布。低硫黄原油を産出。
	北海油田	1959年に発見。70年代に入り本格的開発。

## ⑭おもな鉱産資源 リンク p.92, 93, 106, 108, 109, 111, 112, 114~117, 193

鉱物名	おもな産地	用途
鉄鉱石	クリヴォイログ・マウント・ホエールバック・メサビ・キルナ・アンシャン・イタピラ・カラジャス	鉱床の成因に由来する化学的組成の違いにより、赤鉄鉱・磁鉄鉱・褐鉄鉱などに分類。鉄鋼は機械工業の原料となり「産業の米」と呼ばれる。
銅	ピュート・ピンガム・モレンシー・チュキカマタ・カッパー・ベルト・マウントアイザ	電導性が高く、属性・延性にすぐれており、加工しやすい。また腐食しにくいので、電線、電気機械、器具などに広く利用される。
ボーキサイト	ウェイバ・ゴヴ・ビンタン島・トロンベタス・フリア・ブリニョール	茶褐色をした鉱石で、熱帯・亜熱帯の高温多湿地域に多く分布する。精錬してアルミニウムにする。建築材・自動車・航空機・アルミ箔など用途は広い。
鉛・亜鉛	ブロークンヒル・ボトシ	鉛は鉛蓄電池の極板・はんだ・活字金、かつては水道管に利用。亜鉛は青白色の軟らかい金属で、腐食を防ぐ働きがあり、トタン板などのメッキに用いられている。

鉱物名	おもな産地	用途
すず	オルロ・ボトシ・ブケット島・パンカ島・ブリトン島・ロンドニア地方・イボー	銀白色の光沢がある軟らかい金属で、延展性があり、腐食しにくい。食器、包装材(すず箔)、はんだ、缶材・鉄器のメッキなどに利用される。
ニッケル	サドバリ・ニューカレドニア島	ステンレス鋼、構造用合金鋼(自動車など)、メッキ、磁性材料(スピーカーなど)、蓄電池、IC材料などに利用される。
金	ウィットウォーターズランド・イエローナイフ・カルグーリー	装身具のほか、メッキ、歯科医療材、貨幣、電気接点などの機械部品にも利用される。
ダイヤモンド	アーガイル・オラバ・ジュワネン・アイハル	装身具用、工業用(研磨・金属切り・ガラス切りなど)として利用される。

⑯工業の種類 [リンク](#) p.98~119

種類	特色・立地	おもな都市・地域	
金属工業	鉄鉱石を原料として、各種の鋼材をつくる工業で、近代工業の基幹産業である。立地には①石炭产地型、②鉄鉱石产地型、③石炭・鉄鉱石产地型、④臨海立地型の4つの型がある。	エッセン・ノヴォクズネツク・アンシャン・ボルティモア・タラント	
	ボーキサイトを精錬したアルミナを電気分解してアルミニウムをつくる工業。アルミナの精錬には多量の電力を必要とするので、安価な電力供給地に立地する。	プラーツク・アルゴア・グローブル	
	銅など、非鉄金属の精錬・加工、合金製造などをを行う工業。精錬所は原料产地に立地しやすい。	カッパーベルト	
機械工業	数万点の部品を組み立てる総合工業で、広大な敷地・大資本・熟練労働力・高度な技術などを必要とする。関連工業が発達する消費地の近くに立地する。かつては先進国が多かったが、所得が増え市場が拡大する新興国への進出が広がっている。	デトロイト・パリ・コヴェントリ・ウォルフスブルク・トリノ・豊田	
	総合的な組み立て工業で、大資本と高度な技術を必要とする。水深のある波静かな港湾・晴天の多い気候などの条件に加えて、関連工業の発達した工業地域周辺に立地。	ウルサン・グダンスク・カーディフ・ダンケルク・イエーテボリ・シャンハイ・真	
	20世紀になってから、軍需産業と結び付いた軍産複合体として急成長した。大資本と最先端技術を必要とするため、宇宙産業と同様に研究開発集約型の産業である。	シアトル・ロサンゼルス・グラス・トゥールーズ・モスクワ・テンцин(天津)	
	カメラ・複写機などの光学機械、計器・時計などを製造する工業。立地には、高度な加工技術と伝統的な技術、さらに電子工業などの先端技術との結合が重要となった。	ヌーシャテル・諫訪・岡谷	
化学工業	エレクトロン(電子)の働きを利用した機器を製造する工業。さまざまな分野に応用されている。集積回路(IC)の生産は特定の国の特定の地域に集中する。	シリコンバレー・シリコンプレーン・エレクトロニクスハイウェイ・シンチュー(新竹)	
	石油・天然ガスを原料とし、合成洗剤・農薬・肥料・合成ゴム・合成繊維などを製造する工業で、コンビナートを形成する。広い敷地と用水にめぐまれた臨海工業地域に立地する。	ニューオーリンズ・フォス・ミドルスブラ・鹿嶋・倉敷(水島)・四日市	
	窒素・リン酸・カリウムの肥料を化学的な処理によって製造する。化学工業の基幹をなす。		
織維工業	植物体の繊維質を取り出すパルプ工業と、パルプを原料として紙を製造する製紙工業に分けられる。前者は原木産地か輸入港に、後者は原料と水の豊富な地域に立地する。	シトカ・ポートランド・トロント・苫小牧・富士・日南	
	綿花を原料として綿糸・綿織物を製造する工業で、機械化が産業革命のきっかけとなった。イギリス・日本などが中心だったが、近年はインドなどの綿花生産国に移っている。	シーチヤチョワン・タシケント・ムンバイ(ボンベイ)・マンチェスター	
	羊毛を原料として毛糸・毛織物を製造する工業で、近代工業はヨークシャーに発達。市場立地の傾向が強く、毛織物需要の多い先進国(港湾付近など)に立地するが、近年は安価な労働力を求めて発展途上国への転出が続いている。	ボストン・リーズ・ブラッドフォード・一宮(尾西)・津島	
その他の工業	繭から生糸をつくる製糸業と生糸を原料とした絹織物工業に分けられる。前者は繭の輸送の困難さから養蚕地帯に立地し、後者は原料立地・消費立地・労働立地の3つの型がある。	シャンハイ・リヨン・岡谷・桐生・金沢・京都(西陣)	
	レーヨン工場は多量の水の得られるところに、合成繊維は石油化学コンビナートに立地。	メキシコ湾岸・瀬戸内海沿岸	
	製粉業は「山の工場」と「海の工場」に分けられる。ビール工業は消費地に立地しやすい。	ミネアポリス・ミュンヘン・横浜	
その他	セメント工業	石灰石・粘土を焼いて製造する。原料産地や、製品の輸送に有利な港湾にも立地しやすい。	秩父・小野田・宇部・北九州・津久見
	ガラス工業	けい砂・石灰石・ソーダ灰などを原料として板ガラス等を製造する。ガラスは重量が大きく、破損しやすいため、消費地に近い臨海工業地域に立地する傾向がある。	トレド・横浜・尼崎・堺

⑯おもな地域開発 [リンク](#) p.29, 33, 53, 66, 112, 140, 155, 187, 190

アメリカ	TVA	TVA(テネシー川流域開発公社)の事業。1929年に始まった世界恐慌を克服するためのニューディール政策の一環。テネシー川に30を超える多目的ダムを建設することで、洪水調節・農業用水供給・農地拡大・発電・工業化(化学肥料・アルミニウム工業・原子力工業)などの振興を目指した。
	コロラド川流域開発	コロラド川に多目的ダムを建設(フーヴァーダム・パーカーダム)。ロサンゼルスを中心とするカリフォルニア州南部へ電力と水を供給するなど、農業と工業の発展に寄与した。
ロシアと周辺諸国	自然改造計画と中央アジアの灌漑	ヴォルガ・ドン運河を建設し、カスピ海・黒海・バルト海・白海はすべて内陸水路によって結ばれた。カラクーム運河などの建設によるカラクーム砂漠の緑地化を行ったが、アラル海の縮小を招いてしまった。
イギリス	大ロンドン計画	ロンドンに集中した人口と産業を分散することを目的として、ロンドンの周辺にグリーンベルトの設置とニュータウンを建設。職住近接の新しいまちづくりを行った。
オランダ	テルタ計画	ライン川デルタを中心とする南西部の国土保全と経済開発(1958年~)。海岸線短縮と高潮対策としての堤防の補強やダム建設、内水面の淡水化による水資源の確保、ポルダーの工業化が目指された。
インド	ダモダル川流域開発	ダモダル川流域開発公社(DVC)の開発事業。ダモダル川にダムを建設し、西ベンガル州一帯の洪水防止・農地の灌漑・発電・水運の活発化などを目指した。重工業の発展にも寄与した。
中国	ホワイ川流域総合開発	荒れ川であったホワイ川(淮河)にダムを建設し、洪水防止と灌漑が行われ、農民の生活が安定した。
	ホワンホー(黄河)流域総合開発	サンメンシヤ(三門峡)、リウチヤシヤ(劉家峽)など約40のダムを建設し、河道の固定化や治水・発電を行った。
	西部大開発	サンシヤ(三峡)ダムの建設を起爆剤とし、東高西低の経済格差の是正を目指す現在進行中のプロジェクト。
エジプト	ナイル川流域の開発	イギリスの植民地時代にアスワンダムを建設(1902年)。アスワンダムの上流にソ連の援助でアスワンハイダムを建設(1970年)。農耕地が拡大し、発電による化学肥料工場などが建設されたが、塩害などの問題も生じた。
オーストラリア	スノーウィーマウンテンズ計画	オーストラリアアルプス山脈中のコジアスコ山の東を流れるスノーウィー川を堰き止め、山中に導水トンネルを建設し、マリー川流域へ水を供給。灌漑面積の拡大と小麦の増産や家畜飼育を増大させることができた。
ブラジル	アマゾン地域開発	「緑の魔境」といわれたアマゾン盆地開発のために太平洋からペルーまでを横断する道路を建設した。その結果、地下資源の開発や農地の造成が行われているが、森林伐採による生態系破壊が問題となっている。

名 称	本部・設立年	加盟国・地域	名 称	本部・設立年	加盟国・地域
国際連合(UN, United Nations)	本部 ニューヨーク 1945年設立 193か国	パキスタン市国とコソボを除くすべての国。2011年に南スリランカが新たに加盟した。	独立国家共同体(CIS, Commonwealth of Independent States)	本部 ミンスク 1991年設立 8か国 ( )は準加盟国	ロシア、(ウクライナ)、ベラルーシ、(モルドバ)、アルメニア、アゼルバイジャン、カザフスタン、ウズベキスタン、(トルクメニスタン)、タジキスタン、キルギス、(2009年ジョージア脱退、2014年ウクライナ脱退宣言)
経済協力開発機構(OECD, Organisation for Economic Co-operation and Development)	本部 パリ 1961年設立 34か国	米、加、英、仏、独、伊、ペネルクス3国、オーストリア、デンマーク、ギリシャ、アイスランド、アイルランド、ノルウェー、スウェーデン、ポルトガル、スペイン、イスラエル、トルコ、日、フィンランド、豪、ニュージーランド、メキシコ、チエコ、ハンガリー、ポーランド、韓国、スロバキア、チリ、スロベニア、イスラエル、エストニア	北米自由貿易協定(NAFTA, North American Free Trade Agreement)	本部 ワシントン 1994年設立 3か国	アメリカ、カナダ、メキシコ
北大西洋条約機構(NATO, North Atlantic Treaty Organization)	本部 ブリュッセル 1949年設立 28か国	米、加、英、仏、独、伊、ペネルクス3国、ノルウェー、デンマーク、アイスランド、ポルトガル、ギリシャ、トルコ、スペイン、チエコ、ポーランド、ハンガリー、バルト3国、ブルガリア、ルーマニア、スロバキア、スロベニア、アルバニア、クロアチア	南米南部共同市場(MERCOSUR, Mercado Común del Sur)	事務局 モンテビデオ 1995年設立 6か国 ( )は準加盟国	アルゼンチン、ブラジル、ウルグアイ、パラグアイ、ベネズエラ、ボリビア、(チリ)、(ペルー)、(エクアドル)、(コロンビア)、(ガイアナ)、(スリナム)
ヨーロッパ連合(EU, European Union)	本部 ブリュッセル 1993年改称 28か国	仏、独、伊、ペネルクス3国、アイルランド、英、デンマーク、ギリシャ、スペイン、ポルトガル、オーストリア、フィンランド、スウェーデン、キプロス、マルタ、チエコ、ハンガリー、ポーランド、スロバキア、スロベニア、バルト3国、ルーマニア、ブルガリア、クロアチア	石油輸出国機構(OPEC, Organization of the Petroleum Exporting Countries)	本部 ウィーン 1960年設立 13か国	サウジアラビア、イラン、イラク、リビア、クウェート、カタール、アラブ首長国連邦、ベネズエラ、アルジェリア、ナイジェリア、アンゴラ、エクアドル、インドネシア (2009年～2015年インドネシア一時脱退)
アジア太平洋経済協力(APEC, Asia-Pacific Economic Cooperation)	本部 シンガポール 1989年設立 21か国・地域	日、米、加、豪、ニュージーランド、ラオス・ミャンマー・カンボジアを除くASEAN 7か国、韓国、中国、メキシコ、チリ、ペルー、パプアニューギニア、ロシア、(台湾)、(ホンコン)	アラブ石油輸出国機構(OAPEC, Organization of the Arab Petroleum Exporting Countries)	本部 クウェート 1968年設立 10か国	サウジアラビア、クウェート、アルジェリア、リビア、アラブ首長国連邦、カタール、バーレーン、シリア、イラク、エジプト
東南アジア諸国連合(ASEAN, Association of South-East Asian Nations)	本部 ジャカルタ 1967年設立 10か国	インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ブルネイ、ベトナム、ラオス、ミャンマー、カンボジア	国際エネルギー機関(IEA, International Energy Agency)	本部 パリ 1974年設立 29か国	OECD加盟国からアイスランド、メキシコ、チリ、スロベニア、イスラエルを除いた29か国
アラブ連盟	本部 カイロ 1945年設立 21か国 1 機構	アラブ人が主要民族である国(西アジア11か国、北アフリカ7か国、ジブチ、ソマリア、コモロ)とパレスチナ自治政府(シリアは資格停止中)	アフリカ連合(AU, African Union)	本部 アジスアベバ 2002年改称 53か国 1 地域	モロッコを除くアフリカ53か国と西サハラ

## ⑧おもな国境・領土問題 リンク p.146, 147, 203

紛争地域	対立国	背景	紛争地域	対立国	背景
北方領土 (歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島)	日本、ロシア	日本が第二次世界大戦後、千島列島と南樺太の領有を放棄したことに対して、ロシアと日本で見解が異なり、日本は固有の領土としてロシアに返還を要求している。	ダマンスキー(珍宝)島、シンチヤンウイグル自治区境界線	中国、ソ連 (ロシア カザフスタン)	1969年、中ソ国境のウスリー川の中州である1kmに満たないダマンスキー島の帰属をめぐり、またシンチヤンウイグル自治区でも国境をめぐって中ソ間で武力衝突が起こった。現在は両国境ともに問題は解決されている。
竹島	日本、韓国	島根県隠岐諸島の北西に位置する無人島で、韓国が不法占拠している。韓国名は独島。	オガデン地方	エチオピア、ソマリア	エチオピア東部のオガデン地方はソマリ族の地であり分離・独立を目指して1977年に武力衝突が勃発、1988年に停戦に合意した。
尖閣諸島	日本、中国、(台湾)	沖縄県石垣市に属する無人島で、中国、台湾も領有を主張。中国名は釣魚島。東シナ海の大陸棚で海底油田の存在が確認。近年海底ガス田の開発をめぐり日中間で摩擦が生じている。	英領ジブラルタル	イギリス、スペイン	地中海の出入口に位置するジブラルタルは、軍事的な要衝であり、現在英領だがスペインも領有を主張している。一方、その対岸のスペイン領セウタは、モロッコも領有を主張している。
南沙(スプラトリー)群島	中国、(台湾)、ベトナム、ブルネイ、フィリピン、マレーシア	近年の海底油田の発見により周辺諸国が領有を主張。中国・ベトナムの間では大陸棚を含めて領有を主張し、対立が激しくなり、武力衝突の危険をはらんでいる。	西サハラ地域	サハラ・アラブ、モロッコ	西サハラ地域はサハラ・アラブ民主共和国が領有を主張しているが、その多くをモロッコが支配している。日本はサハラ・アラブを国家として承認していないが、世界で58か国が承認しており、アフリカ連合(AU)にも加盟している。
中印国境地帯	中国、インド	ヒマラヤ山脈をはさむ東部国境(マクマホンラインの認否)と西部国境(アクサイチンの帰属)で対立。	フォークランド(マルビナス諸島)	イギリス、アルゼンチン	1833年以来イギリスの属領とされてきたが、1816年に独立したアルゼンチンはスペインからの継承を主張。1982年に武力衝突が起り、イギリスが勝利。
カシミール地方	インド、パキスタン	1947年のイギリス領インドがインドとパキスタンに分離して独立する際、藩王と住民の両国への帰属の意志の違いから対立が起り、これまで度々この地域をめぐる印パ戦争が繰り返されてきた。	南極	英、仏、チリ、アルゼンチン、ノルウェー、オーストラリア、ニュージーランド	1959年に日本も含めた12か国で調印された南極条約で30年間国際統治されることになった。期限切れ後も領有権問題は凍結されているが、7か国が領有権を主張している。
シャトルアラブ川	イラン、イラク	1975年の国境協定をイラク側が1980年に一方的に破棄し、全面戦争に突入(イラン・イラク戦争)し、1988年停戦。米ソがイラク支援。			

## ⑩おもな人種・民族問題 リンク p.148, 149, 154, 161, 170, 171, 176, 182, 191, 200, 202

問題名		背景・経過・概要	背景・経過・概要	
東・東南アジア	チベット自治区分離・独立問題	チベット自治区の多くはチベット族。1988年以降漢族支配に抵抗するアモが盛んとなった。2008年にはチベット仏教僧侶の抗議行動から大規模な暴動が発生した。	アフリカ	ルワンダ内戦
	シンチヤンウイグル自治区分離・独立問題	シンチヤンウイグル自治区の約半数はムスリムのウイグル族。現在では漢民族の人口が増加し、様々な場面で摩擦が生じている。2009年には暴動も発生した。		ソマリア内戦
	モロ民族問題	ミンダナオ島などのイスラームを信仰するモロ族は、フィリピンからの分離・独立を求めて闘争。1996年の暫定合意後もそれに反対する勢力による武力闘争が続いたが、2012年に和平合意した。		北アイルランド分離・独立問題
	アチェ特別州分離・独立問題	アチェ州から産出する天然ガスの利益配分などをめぐり独立を要求してきたが、2004年のスマトラ沖地震をきっかけに2005年に和平協定が調印された。	ヨーロッパ	ベルギー言語問題
	パンジャブ紛争	インドのパンジャブ州では、シク教徒とヒンドゥー教徒が対立。一部のシク教徒はインドからの分離・独立を求めている。		バスク分離・独立問題
	タミル人分離・独立問題	スリランカの北部に住むヒンドゥー教のタミル人が、多数民族で仏教徒のシンハラ人と対立し、スリランカからの分離・独立を求めて内戦が続いたが、2009年終結。		コソボ紛争
	パレスチナ問題	パレスチナにユダヤ人国家イスラエルが建国され(1948年)、アラブ人国家との間に戦争が発生。94年にパレスチナ暫定自治政府(PLO)が樹立されたが、最近情勢悪化。	CIS	チェチェン紛争
	クルド人独立問題	イラン・イラク・トルコなどの国境にまたがった山岳地帯にはクルド人が居住。クルド人は自治権を要求し独立を望んでいるが、関係国は強く反対している。		ジョージア(グルジア)紛争(南オセチア紛争)
	キプロス紛争	人口の約8割を占めるギリシャ系住民と、トルコ系住民が対立。1974年にトルコ軍が侵攻し、トルコ系住民の住む北部地域が独立を宣言したが、未承認の国が多い。	北アメリカ	アメリカ先住民問題
アフリカ	ブルンジ内戦	ルワンダの隣国ブルンジで、多数派ツチ人の間で対立抗争が続いている。		ケベック分離・独立問題
	スーダン内戦	北部のアラブ系ムスリムと南部のおもにキリスト教を信仰する黒人が対立し、2003年頃から西部のダルフール地方ではアラブ系民兵による黒人住民の虐殺行為(ダルフル紛争)が発生し、現在も解決していない。また2011年に南部が南スーダンとして独立したが、スーダンとの国境地帯は油田地帯でもあり、その帰属をめぐる対立は解消されていない。	オセアニア	アボリジニの土地所有権問題
				マオリの先住民権利問題

## ⑪図法の種類と特徴 リンク p.6, 7

図法名		特 徵	用 途
サンソン図法	●緯線はすべて等間隔の平行直線で、長さはすべて正しい。経線は、中央経線が直線であるが、ほかはサインカーブ(正弦曲線)である。中央経線と赤道付近のひずみが小さい。	赤道を中心とした地図。アフリカ大陸図	
モルワイデ図法	●緯線はすべて平行直線で緯度40° 44'の緯線の長さだけが正しく、それより低緯度では実際より短く、高緯度では長い。緯線間隔は高緯度になるにしたがって狭くなる。経線は中央経線のみが直線で、ほかは楕円となっている。	中緯度地方を中心とした地方図	世界全図
ホモロサイン図法(グード図法)	●低緯度をサンソン図法、高緯度をモルワイデ図法を用い、両者を緯線の長さが一致する40° 44'で結合した地図。大陸の形のひずみを小さくするために海洋部で断裁させている。		世界全図
エケクラト図法	●本来は点である極を赤道の半分の長さに描い		

図法名		特 徵	用 途
正角図法	メルカトル図法	●緯線は経線に直交した平行直線で、緯線間隔は高緯度に向かうにつれて大きくなる。経線は等間隔の平行直線。地図上の2点を結ぶ直線は等角航路を示し、この線が経線と交わってなす角を舵角という。	海図
	ランベルト正角円錐図法	●緯線は同心円の円弧で、経線は放射直線となる。中緯度を描くのに適した図法。ドイツ人ランベルトによって考案された図法である。	天気図・航空図・海底地形図・日本全国
方位図法	正距方位図法	●図の中心の地点からほかの地点への方位と距離が正しく示される。図の中心とほかの任意の地点を結んだ直線は、その2点間の最短コース(大圓航路)を示す。また、その直線と図の中心を通る経線とのなす角は図の中心から見たその地点の方位角である。	航空図
	ランベルト正角円錐図法	●図の中心の点からほかの点への方位が正しく	大陸図・半球図

# のあむな人物・民族問題

アフリカ	ヨーロッパ	北アメリカ	南アメリカ
セヘレト物語民族・独立運動	ルワンダ内戦	ソマリア内戦	ウクライナ紛争
シンガポール・マラウイ内戦・独立運動	アフリカ	北アイルランド内戦・独立運動	北朝鮮・韓国・朝鮮半島
セロ民族問題	バスク分離・独立運動	ベルギー内戦問題	南米内戦
アフリカ特別州対立・独立運動	コソボ紛争	チュニジア紛争	チリ内戦
パンジャブ紛争	ジョージア(グルジア)紛争(南オセチア紛争)	アメリカ先住民問題	ペルー内戦
タガル人紛争・独立運動	ケベック分離・独立運動	アボリジニの土地所有権問題	アルゼンチン内戦
パレスチナ紛争	オセチア	マオリの先住民権利問題	ボリビア内戦
クルド人独立運動	アフリカ	●紳線はすべて等間隔の平行直線で、長さはすべて正しい。経線は、中央経線が直線であるが、ほかはサインカーブ(正弦曲線)である。中央経線と赤道付近のひずみが小さい。	ペルー内戦
キプロス紛争	ヨーロッパ	●紳線は経緯に直交した平行直線で、紳線は高緯度に向かうにつれて大きくなる。経線は等間隔の平行直線。地図上の2点を結ぶ直線は等角航路を示し、この線が経線と交わってなす角を船角といいう。	ペルー内戦
フルンジ内戦	北アメリカ	●紳線は同心円の円弧で、紳線は放射直線となる。中緯度を描くのに適した図法。ドイツ人ランベルトによって考案された図法である。	ペルー内戦
スーザン内戦	南アメリカ	●図の中心の地点からほかの地点への方位と距離が正しく示される。図の中心とほかの任意の地点を結んだ直線は、その2点間の最短コース(大圓航路)を示す。また、その直線と図の中心を通る緯線とのなす角は図の中心から見たその地点の方位角である。	ペルー内戦
	●ランベルト正積方位図法	●図の中心点からほかの地点への方位が正しく示され、図の中心からほかの任意の地点までの距離(最短距離)もあらかじめこの図法のためにつくられた距離尺を用いて求めることができる。中心から広範囲にわたって形のひずみが小さい。なお、正積方位図法でもあるため、面積も正しくあらわされる。	ペルー内戦
	●メルカトル図法	●メルカトル図法	ペルー内戦
	●ランベルト正積方位図法	●ランベルト正積方位図法	ペルー内戦
	●正距方位図法	●正距方位図法	ペルー内戦
	●ポンヌ内戦	●ポンヌ内戦	ペルー内戦
	●ハンメル内戦	●ハンメル内戦	ペルー内戦
	●セロ内戦	●セロ内戦	ペルー内戦
	●アフリカ内戦	●アフリカ内戦	ペルー内戦
	●バスク内戦	●バスク内戦	ペルー内戦
	●コソボ紛争	●コソボ紛争	ペルー内戦
	●チュニジア紛争	●チュニジア紛争	ペルー内戦
	●アボリジニの土地所有権問題	●アボリジニの土地所有権問題	ペルー内戦
	●マオリの先住民権利問題	●マオリの先住民権利問題	ペルー内戦
	●セロ内戦	●セロ内戦	ペルー内戦
	●アフリカ内戦	●アフリカ内戦	ペルー内戦
	●バスク内戦	●バスク内戦	ペルー内戦
	●コソボ紛争	●コソボ紛争	ペルー内戦
	●チュニジア紛争	●チュニジア紛争	ペルー内戦
	●アボリジニの土地所有権問題	●アボリジニの土地所有権問題	ペルー内戦
	●マオリの先住民権利問題	●マオリの先住民権利問題	ペルー内戦
	●セロ内戦	●セロ内戦	ペルー内戦
	●アフリカ内戦	●アフリカ内戦	ペルー内戦
	●バスク内戦	●バスク内戦	ペルー内戦
	●コソボ紛争	●コソボ紛争	ペルー内戦
	●チュニジア紛争	●チュニジア紛争	ペルー内戦
	●アボリジニの土地所有権問題	●アボリジニの土地所有権問題	ペルー内戦
	●マオリの先住民権利問題	●マオリの先住民権利問題	ペルー内戦
	●セロ内戦	●セロ内戦	ペルー内戦
	●アフリカ内戦	●アフリカ内戦	ペルー内戦
	●バスク内戦	●バスク内戦	ペルー内戦
	●コソボ紛争	●コソボ紛争	ペルー内戦
	●チュニジア紛争	●チュニジア紛争	ペルー内戦
	●アボリジニの土地所有権問題	●アボリジニの土地所有権問題	ペルー内戦
	●マオリの先住民権利問題	●マオリの先住民権利問題	ペルー内戦
	●セロ内戦	●セロ内戦	ペルー内戦
	●アフリカ内戦	●アフリカ内戦	ペルー内戦
	●バスク内戦	●バスク内戦	ペルー内戦
	●コソボ紛争	●コソボ紛争	ペルー内戦
	●チュニジア紛争	●チュニジア紛争	ペルー内戦
	●アボリジニの土地所有権問題	●アボリジニの土地所有権問題	ペルー内戦
	●マオリの先住民権利問題	●マオリの先住民権利問題	ペルー内戦
	●セロ内戦	●セロ内戦	ペルー内戦
	●アフリカ内戦	●アフリカ内戦	ペルー内戦
	●バスク内戦	●バスク内戦	ペルー内戦
	●コソボ紛争	●コソボ紛争	ペルー内戦
	●チュニジア紛争	●チュニジア紛争	ペルー内戦
	●アボリジニの土地所有権問題	●アボリジニの土地所有権問題	ペルー内戦
	●マオリの先住民権利問題	●マオリの先住民権利問題	ペルー内戦
	●セロ内戦	●セロ内戦	ペルー内戦
	●アフリカ内戦	●アフリカ内戦	ペルー内戦
	●バスク内戦	●バスク内戦	ペルー内戦
	●コソボ紛争	●コソボ紛争	ペルー内戦
	●チュニジア紛争	●チュニジア紛争	ペルー内戦
	●アボリジニの土地所有権問題	●アボリジニの土地所有権問題	ペルー内戦
	●マオリの先住民権利問題	●マオリの先住民権利問題	ペルー内戦
	●セロ内戦	●セロ内戦	ペルー内戦
	●アフリカ内戦	●アフリカ内戦	ペルー内戦
	●バスク内戦	●バスク内戦	ペルー内戦
	●コソボ紛争	●コソボ紛争	ペルー内戦
	●チュニジア紛争	●チュニジア紛争	ペルー内戦
	●アボリジニの土地所有権問題	●アボリジニの土地所有権問題	ペルー内戦
	●マオリの先住民権利問題	●マオリの先住民権利問題	ペルー内戦
	●セロ内戦	●セロ内戦	ペルー内戦
	●アフリカ内戦	●アフリカ内戦	ペルー内戦
	●バスク内戦	●バスク内戦	ペルー内戦
	●コソボ紛争	●コソボ紛争	ペルー内戦
	●チュニジア紛争	●チュニジア紛争	ペルー内戦
	●アボリジニの土地所有権問題	●アボリジニの土地所有権問題	ペルー内戦
	●マオリの先住民権利問題	●マオリの先住民権利問題	ペルー内戦
	●セロ内戦	●セロ内戦	ペルー内戦
	●アフリカ内戦	●アフリカ内戦	ペルー内戦
	●バスク内戦	●バスク内戦	ペルー内戦
	●コソボ紛争	●コソボ紛争	ペルー内戦
	●チュニジア紛争	●チュニジア紛争	ペルー内戦
	●アボリジニの土地所有権問題	●アボリジニの土地所有権問題	ペルー内戦
	●マオリの先住民権利問題	●マオリの先住民権利問題	ペルー内戦
	●セロ内戦	●セロ内戦	ペルー内戦
	●アフリカ内戦	●アフリカ内戦	ペルー内戦
	●バスク内戦	●バスク内戦	ペルー内戦
	●コソボ紛争	●コソボ紛争	ペルー内戦
	●チュニジア紛争	●チュニジア紛争	ペルー内戦
	●アボリジニの土地所有権問題	●アボリジニの土地所有権問題	ペルー内戦
	●マオリの先住民権利問題	●マオリの先住民権利問題	ペルー内戦
	●セロ内戦	●セロ内戦	ペルー内戦
	●アフリカ内戦	●アフリカ内戦	ペルー内戦
	●バスク内戦	●バスク内戦	ペルー内戦
	●コソボ紛争	●コソボ紛争	ペルー内戦
	●チュニジア紛争	●チュニジア紛争	ペルー内戦
	●アボリジニの土地所有権問題	●アボリジニの土地所有権問題	ペルー内戦
	●マオリの先住民権利問題	●マオリの先住民権利問題	ペルー内戦
	●セロ内戦	●セロ内戦	ペルー内戦
	●アフリカ内戦	●アフリカ内戦	ペルー内戦
	●バスク内戦	●バスク内戦	ペルー内戦
	●コソボ紛争	●コソボ紛争	ペルー内戦
	●チュニジア紛争	●チュニジア紛争	ペルー内戦
	●アボリジニの土地所有権問題	●アボリジニの土地所有権問題	ペルー内戦
	●マオリの先住民権利問題	●マオリの先住民権利問題	ペルー内戦
	●セロ内戦	●セロ内戦	ペルー内戦
	●アフリカ内戦	●アフリカ内戦	ペルー内戦
	●バスク内戦	●バスク内戦	ペルー内戦
	●コソボ紛争	●コソボ紛争	ペルー内戦
	●チュニジア紛争	●チュニジア紛争	ペルー内戦
	●アボリジニの土地所有権問題	●アボリジニの土地所有権問題	ペルー内戦
	●マオリの先住民権利問題	●マオリの先住民権利問題	ペルー内戦
	●セロ内戦	●セロ内戦	ペルー内戦
	●アフリカ内戦	●アフリカ内戦	ペルー内戦
	●バスク内戦	●バスク内戦	ペルー内戦
	●コソボ紛争	●コソボ紛争	ペルー内戦
	●チュニジア紛争	●チュニジア紛争	ペルー内戦
	●アボリジニの土地所有権問題	●アボリジニの土地所有権問題	ペルー内戦
	●マオリの先住民権利問題	●マオリの先住民権利問題	ペルー内戦
	●セロ内戦	●セロ内戦	ペルー内戦
	●アフリカ内戦	●アフリカ内戦	ペルー内戦
	●バスク内戦	●バスク内戦	ペルー内戦
	●コソボ紛争	●コソボ紛争	ペルー内戦
	●チュニジア紛争	●チュニジア紛争	ペルー内戦
	●アボリジニの土地所有権問題	●アボリジニの土地所有権問題	ペルー内戦
	●マオリの先住民権利問題	●マオリの先住民権利問題	ペルー内戦
	●セロ内戦	●セロ内戦	ペルー内戦
	●アフリカ内戦	●アフリカ内戦	ペルー内戦
	●バスク内戦	●バスク内戦	ペルー内戦
	●コソボ紛争	●コソボ紛争	ペルー内戦
	●チュニジア紛争	●チュニジア紛争	ペルー内戦
	●アボリジニの土地所有権問題	●アボリジニの土地所有権問題	ペルー内戦
	●マオリの先住民権利問題	●マオリの先住民権利問題	ペルー内戦
	●セロ内戦	●セロ内戦	ペルー内戦
	●アフリカ内戦	●アフリカ内戦	ペルー内戦
	●バスク内戦	●バスク内戦	ペルー内戦
	●コソボ紛争	●コソボ紛争	ペルー内戦
	●チュニジア紛争	●チュニジア紛争	ペルー内戦
	●アボリジニの土地所有権問題	●アボリジニの土地所有権問題	ペルー内戦
	●マオリの先住民権利問題	●マオリの先住民権利問題	ペルー内戦
	●セロ内戦	●セロ内戦	ペルー内戦
	●アフリカ内戦	●アフリカ内戦	ペルー内戦
	●バスク内戦	●バスク内戦	ペルー内戦
	●コソボ紛争	●コソボ紛争	ペルー内戦
	●チュニジア紛争	●チュニジア紛争	ペルー内戦
	●アボリジニの土地所有権問題	●アボリジニの土地所有権問題	ペルー内戦
	●マオリの先住民権利問題	●マオリの先住民権利問題	ペルー内戦
	●セロ内戦	●セロ内戦	ペルー内戦
	●アフリカ内戦	●アフリカ内戦	ペルー内戦
	●バスク内戦	●バスク内戦	ペルー内戦
	●コソボ紛争	●コソボ紛争	ペルー内戦
	●チュニジア紛争	●チュニジア紛争	ペルー内戦
	●アボリジニの土地所有権問題	●アボリジニの土地所有権問題	ペルー内戦
	●マオリの先住民権利問題	●マオリの先住民権利問題	ペルー内戦
	●セロ内戦	●セロ内戦	ペルー内戦
	●アフリカ内戦	●アフリカ内戦	ペルー内戦
	●バスク内戦	●バスク内戦	ペルー内戦
	●コソボ紛争	●コソボ紛争	ペルー内戦
	●チュニジア紛争	●チュニジア紛争	ペルー内戦
	●アボリジニの土地所有権問題	●アボリジニの土地所有権問題	ペルー内戦

19 おもな人種・民族問題 [リンク](#) p.148, 149, 154, 161, 170, 171, 176, 182, 191, 200, 202

問題名		背景・経過・概要	問題名		背景・経過・概要
東・東南アジア	チベット自治区分離・独立問題	チベット自治区の多くはチベット族。1988年以降漢族支配に抵抗するデモが盛んとなった。2008年にはチベット仏教僧侶の抗議行動から大規模な暴動が発生した。	アフリカ	ルワンダ内戦	農耕民である多数派民族ツツ人と牧畜民の少数派民族ツチ人とが、国家の主導権を争い抗争。隣国コンゴも巻き込み激化。2002年ルワンダとコンゴが平和条約締結。
	シンチヤンウイグル自治区分離・独立問題	シンチヤンウイグル自治区の約半数はムスリムのウイグル族。現在では漢民族の人口が増加し、様々な場面で摩擦が生じている。2009年には暴動も発生した。		ソマリア内戦	反政府勢力の1つである統一ソマリア会議のゲリラ軍が首都を制圧(1991年)して以降、内戦や干ばつが続き、現在も無政府状態となっている。
	モロ民族問題	ミンダナオ島などのイスラームを信仰するモロ族は、フィリピンからの分離・独立を求める闘争、1996年の暫定合意後もそれに反対する勢力による武力闘争が続いたが、2012年に和平合意した。		北アイルランド分離・独立問題	北アイルランドでは多数派のアングロサクソン系プロテスタントとケルト系カトリックとの激しい対立が続いたが、1998年に和平合意、2007年に自治政府成立。
	アチエ特別州分離・独立問題	アチエ州から産出する天然ガスの利益配分などをめぐり独立を要求してきたが、2004年のスマトラ沖地震をきっかけに2005年に和平協定が調印された。	ヨーロッパ	ベルギー言語問題	北部でオランダ語系のフラマン語、南部でフランス語系のワロン語が用いられ、フラマン語地域とワロン語地域との間に言語の違いによる南北の地域対立がある。
	パンジャブ紛争	インドのパンジャブ州では、シク教徒とヒンドゥー教徒が対立。一部のシク教徒はインドからの分離・独立を求めている。		バスク分離・独立問題	バスク人はフランス・スペイン国境のビレネー山脈の両側に分布。多くはスペインのバスク地方に住み、スペインからの分離・独立運動が見られる。
南・西アジア	タミル人分離・独立問題	スリランカの北部に住むヒンドゥー教のタミル人が、多民族で仏教徒のシンハラ人と対立し、スリランカからの分離・独立を求めて内戦が続いたが、2009年終結。	CIS	コソボ紛争	90%以上がアルバニア系であるコソボ自治州へのセルビアによる弾圧に対し、NATO軍は1999年ユーゴを空爆し、ユーゴ軍を完全撤退させた。2008年に独立を宣言。
	パレスチナ問題	パレスチナにユダヤ人国家イスラエルが建国され(1948年)、アラブ人国家との間に戦争が発生。94年にパレスチナ暫定自治政府(PLO)が樹立されたが、最近情勢悪化。		チェチェン紛争	ムスリムの多いチェチェン共和国はロシアからの独立を求めたが、これを認めないロシアは1994年に軍隊を侵攻させた。96年に停戦合意したが99年に再燃。
	クルド人独立問題	イラン・イラク・トルコなどの国境にまたがった山岳地域にはクルド人が居住。クルド人は自治権を要求し独立を望んでいるが、関係国は強く反対している。		ジョージア(グルジア)紛争(南オセチア紛争)	2008年、親ロシアのアブハジア自治共和国と南オセチア自治州にジョージアが攻撃、ロシアとの戦争に発展した。この地域を通るパイプラインの利権争いも背景にある。
	キプロス紛争	人口の約8割を占めるギリシャ系住民と、トルコ系住民が対立。1974年にトルコ軍が侵攻し、トルコ系住民の住む北部地域が独立を宣言したが、未承認の国が多い。	北アメリカ	アメリカ先住民問題	アメリカの先住民(ネイティブアメリカン(アメリカインディアン))は1960年代より差別への抗議行動を繰り広げ、近年は自治権の拡大などを求めている。
	ブルンジ内戦	ルワンダの隣国ブルンジで、多数派ツチ人と軍部を掌握する少数派ツチ人の間で対立抗争が続いている。		ケベック分離・独立問題	かつてフランスの植民地であり、フランス系住民が大半を占めるケベック州では、分離・独立の可否を問う住民投票が実施されるなど、カナダからの分離・独立運動が見られる。
アフリカ	スーダン内戦	北部のアラブ系ムスリムと南部のおもにキリスト教を信仰する黒人が対立し、2003年頃から西部のダルフール地方ではアラブ系民兵による黒人住民の虐殺行為(ダルフール紛争)が発生し、現在も解決していない。また2011年には南部が南スーダンとして独立したが、スーダンとの国境地帯は油田地帯でもあり、その帰属をめぐる対立は解消されていない。	オセアニア	アボリジニの土地所有権問題	オーストラリアの先住民であるアボリジニは、政府に対して土地の返還を要求。1992年に最高裁判所はアボリジニの伝統的土地所有権を認めた。
				マオリの先住民権利問題	1840年にワイタンギ条約でマオリの土地所有権は保証されたが、植民地政府および入植者によって土地紛争などが再発。今日、先住民マオリの権利回復が進んでいる。

20 図法の種類と特徴 [リンク](#) p.6, 7

図法名		特徴	用途	図法名		特徴	用途
正積図法	サンソン図法	●緯線はすべて等間隔の平行直線で、長さはすべて正しい。経線は、中央経線が直線であるが、ほかはサインカーブ(正弦曲線)である。中央経線と赤道付近のひずみが小さい。	赤道を中心とした地図、アフリカ大陸図	正角図法	メルカトル図法	●緯線は経線に直交した平行直線で、緯線間隔は高緯度に向かうにつれて大きくなる。経線は等間隔の平行直線。地図上の2点を結ぶ直線は等角航路を示し、この線が経線と交わってなす角を舵角という。	海図
	モルワイデ図法	●緯線はすべて平行直線で緯度40° 44'の緯線の長さだけが正しく、それより低緯度では実際より短く、高緯度では長い。緯線間隔は高緯度になるにしたがって狭くなる。経線は中央経線のみが直線で、ほかは楕円となっている。	中緯度地方を中心とした地方図		ランベルト正角円錐図法	●緯線は同心円の円弧で、経線は放射直線からなる。中緯度を描くのに適した図法。ドイツ人ランベルトによって考案された図法である。	天気図・航空図・海底地形図・日本全図
	ホモロサイン図法(グード図法)	●低緯度をサンソン図法、高緯度をモルワイデ図法を用い、両者を緯線の長さが一致する40° 44'で結合した地図。大陸の形のひずみを小さくするために海洋部で断裂させている。	世界全図	方位図法	正距方位図法	●図の中心の地点からほかの地点への方位と距離が正しく示される。図の中心とほかの任意の地点を結んだ直線は、その2点間の最短コース(大円弧)を示す。また、その直線と図の中心を通る経線とのなす角は図の中心から見たその地点の方位角である。	航空図
	エケルト図法	●本来は点である極を赤道の半分の長さに描いている。極:中央経線:赤道の長さが1:1:2になっている。	世界全図		ランベルト正積方位図法	●図の中心点からほかの地点への方位が正しく示され、図の中心からほかの任意の地点までの距離(最短距離)もあらかじめこの図法のためにつくられた距離尺を用いて求めることができる。中心から広範囲にわたって形のひずみが小さい。なお、正積方位図法でもあるため、面積も正しくあらわされる。	大陸図・半球図(水半球・陸半球)
	ポンヌ図法	●緯線は等間隔の同心円で、経線は中央経線を除き、ほかはすべて曲線である。	大陸図・地方図				
	ハンメル図法	●ランベルト正積方位図法の赤道および各経線を2倍の長さの直線にし、全体を楕円形に描いた図法。	世界地図				

19おもな人種・民族問題 リンク p.148, 149, 154, 161, 170, 171, 176, 182, 191, 200, 202

問題名		背景・経過・概要	問題名	背景・経過・概要	
東・東南アジア	チベット自治区分離・独立問題	チベット自治区の多くはチベット族。1988年以降漢族支配に抵抗するデモが癡んとなった。2008年にはチベット仏教僧侶の抗議行動から大規模な暴動が発生した。	ルワンダ内戦	農耕民である多数派民族ツイ人と牧畜民の少数派民族ツチ人との、国家の主導権を争い抗争。隣国コンゴも巻き込み激化。2002年ルワンダとコンゴが平和条約締結。	
	シンチヤンウイグル自治区分離・独立問題	シンチヤンウイグル自治区の約半数はムスリムのウイグル族。現在では漢民族の人口が増加し、様々な場面で摩擦が生じている。2009年には暴動も発生した。	ソマリア内戦	反政府勢力の1つである統一ソマリア会議のゲリラ軍が首都を制圧(1991年)して以降、内戦や干ばつが続いている。	
	モロ民族問題	ミンダナオ島などのイスラームを信仰するモロ族は、フィリピンからの分離・独立を求める闘争。1996年の暫定合意後もそれに反対する勢力による武力闘争が続いたが、2012年に和平合意した。	北アイルランド分離・独立問題	北アイルランドでは多数派のアングロサクソン系プロテスタントとケルト系カトリックとの激しい対立が続いたが、1998年に和平合意、2007年に自治政府成立。	
	アチエ特別州分離・独立問題	アチエ州から産出する天然ガスの利益配分などをめぐり独立を要求してきたが、2004年のスマトラ沖地震をきっかけに2005年に和平協定が調印された。	ベルギー言語問題	北部でオランダ語系のフラマン語、南部でフランス語系のワロン語が用いられ、フラマン語地域とワロン語地域との間に言語の違いによる南北の地域対立がある。	
	バンジャープ紛争	インドのバンジャープ州では、シク教徒とヒンドゥー教徒が対立。一部のシク教徒はインドからの分離・独立を求めており、	バスク分離・独立問題	バスク人はフランス・スペイン国境のビレネー山脈の両側に分布。多くはスペインのバスク地方に住み、スペインからの分離・独立運動が見られる。	
	タミル人分離・独立問題	スリランカの北部に住むヒンドゥー教のタミル人が、多數民族で仏教徒のシンハラ人と対立し、スリランカからの分離・独立を求めて内戦が続いたが、2009年終結。	コソボ紛争	90%以上がアルバニア系であるコソボ自治州へのセルビア人による弾圧に対し、NATO軍は1999年ユーゴを空爆し、ユーゴ軍を完全撤退させた。2008年に独立を宣言。	
	パレスチナ問題	パレスチナにユダヤ人国家イスラエルが建国され(1948年)、アラブ人国家との間に戦争が発生。94年にパレスチナ暫定自治政府(PLO)が樹立されたが、最近情勢悪化。	チェチェン紛争	ムスリムの多いチェチェン共和国はロシアからの独立を求めたが、これを認めないロシアは1994年に軍隊を侵攻させた。96年に停戦合意したが99年に再燃。	
南・西アジア	クルド人独立問題	イラン・イラク・トルコなどの国境にまたがった山岳地域にはクルド人が居住。クルド人は自治権を要求し独立を望んでいるが、関係国は強く反対している。	ジョージア(グルジア)紛争 (南オセチア紛争)	2008年、親ロシアのアブハジア自治共和国と南オセチア自治州にジョージアが攻撃、ロシアとの戦争に発展した。この地域を通るバイブルайнの利権争いも背景にある。	
	キプロス紛争	人口の約8割を占めるギリシャ系住民と、トルコ系住民が対立。1974年にトルコ軍が侵攻し、トルコ系住民の住む北部地域が独立を宣言したが、未承認の国が多い。	アメリカ先住民問題	アメリカの先住民(ネイティブアメリカン(アメリカインディアン))は1960年代より差別への抗議行動を繰り広げ、近年は自治権の拡大などを求めている。	
	ブルンジ内戦	ルワンダの隣国ブルンジで、多数派ツチ人と軍部を掌握する少数派ツチ人の間で対立抗争が続いている。	ケベック分離・独立問題	かつてフランスの植民地であり、フランス系住民が大半を占めるケベック州では、分離・独立の可否を問う住民投票が実施されるなど、カナダからの分離・独立運動が見られる。	
	アフリカ	スーダン内戦	北部のアラブ系ムスリムと南部のおもにキリスト教を信仰する黒人が対立し、2003年頃から西部のダルフール地方ではアラブ系民兵による黒人住民の虐殺行為(ダルフール紛争)が発生し、現在も解決していない。また2011年には南部が南スーダンとして独立したが、スーダンとの国境地帯は油田地帯でもあり、その帰属をめぐる対立は解消されていない。	アボリジニの土地所有権問題	オーストラリアの先住民であるアボリジニは、政府に対して土地の返還を要求。1992年に最高裁判所はアボリジニの伝統的土地所有権を認めた。
			マオリの先住民権利問題	1840年にワイタンギ条約でマオリの土地所有権は保証されたが、植民地政府および入植者によって土地紛争などが再発。今日、先住民マオリの権利回復が進んでいる。	

20図法の種類と特徴 リンク p.6, 7

図法名	特 徴	用 途	図法名	特 徴	用 途
サンソン図法	●緯線はすべて等間隔の平行直線で、長さはすべて正しい。経線は、中央経線が直線であるが、ほかはサインカーブ(正弦曲線)である。中央経線と赤道付近のひずみが小さい。	赤道を中心とした地図、アフリカ大陸図	メリカトル図法	●緯線は経線に直交した平行直線で、緯線間隔は高緯度に向かうにつれて大きくなる。経線は等間隔の平行直線。地図上の2点を結ぶ直線は等角航路を示し、この線が経線と交わってなす角を舵角という。	海図
モルワイデ図法	●緯線はすべて平行直線で緯度40° 44'の緯線の長さだけが正しく、それより低緯度では実際より短く、高緯度では長い。緯線間隔は高緯度になるにしたがって狭くなる。経線は中央経線のみが直線で、ほかは梢円となっている。	中緯度地方を中心とした地方図	ランベルト正角円錐図法	●緯線は同心円の円弧で、経線は放射直線となる。中緯度を描くのに適した図法。ドイツ人ランベルトによって考案された図法である。	天気図・航空図・海底地形図・日本全図
ホモロサイン図法 (グード図法)	●低緯度をサンソン図法、高緯度をモルワイデ図法を用い、両者を緯線の長さが一致する40° 44'で結合した地図。大陸の形のひずみを小さくするために海洋部で断裂させている。	世界全図	正距方位図法	●図の中心の地点からほかの地点への方位と距離が正しく示される。図の中心とほかの任意の地点を結んだ直線は、その2点間の最短コース(大円航路)を示す。また、その直線と図の中心を通る経線とのなす角は図の中心から見たその地点の方位角である。	航空図
エケルト図法	●本來は点である極を赤道の半分の長さに描いている。極:中央経線:赤道の長さが1:1:2になっている。	世界全図	ランベルト正積方位図法	●図の中心点からほかの地点への方位が正しく示され、図の中心からほかの任意の地点までの距離(最短距離)もあらかじめこの図法のためにつくられた距離尺を用いて求めることができる。中心から広範囲にわたって形のひずみが小さい。なお、正積方位図法でもあるため、面積も正しくあらわされる。	大陸図・半球図(水半球・陸半球)
ポンヌ図法	●緯線は等間隔の同心円で、経線は中央経線を除き、ほかはすべて曲線である。	大陸図・地方図			
ハンメル図法	●ランベルト正積方位図法の赤道および各経線を2倍の長さの直線にし、全体を梢円形に描いた図法。	世界地図			

⑯おもな人種・民族問題 [リンク](#) p.148, 149, 154, 161, 170, 171, 176, 182, 191, 200, 202

問題名		背景・経過・概要	問題名	背景・経過・概要
東・東南アジア	チベット自治区分離・独立問題	チベット自治区の多くはチベット族。1988年以降漢族支配に抵抗するデモが盛んとなった。2008年にはチベット仏教僧侶の抗議行動から大規模な暴動が発生した。	ルワンダ内戦	農耕民である多数派民族ツツ人と牧畜民の少数派民族ツチ人との、国家の主導権を争い抗争。隣国コンゴも巻き込み激化。2002年ルワンダとコンゴが平和条約締結。
	シンチヤンウイグル自治区分離・独立問題	シンチヤンウイグル自治区の約半数はムスリムのウイグル族。現在では漢民族の人口が増加し、様々な場面で摩擦が生じている。2009年には暴動も発生した。	ソマリア内戦	反政府勢力の1つである統一ソマリア会議のゲリラ軍が首都を制圧(1991年)して以降、内戦や干ばつが続き、現在も無政府状態となっている。
	モロ民族問題	ミンダナオ島などのイスラームを信仰するモロ族は、フィリピンからの分離・独立を求める闘争、1996年の暫定合意後もそれに反対する勢力による武力闘争が続いたが、2012年に和平合意した。	北アイルランド分離・独立問題	北アイルランドでは多数派のアングロサクソン系プロテスタントとケルト系カトリックとの激しい対立が続いたが、1998年に和平合意、2007年に自治政府成立。
	アチェ特別州分離・独立問題	アチェ州から産出する天然ガスの利益配分などをめぐり独立を要求してきたが、2004年のスマトラ沖地震をきっかけに2005年に和平協定が調印された。	ベルギー言語問題	北部でオランダ語系のフラマン語、南部でフランス語系のワロン語が用いられ、フラマン語地域とワロン語地域との間に言語の違いによる南北の地域対立がある。
	パンジャブ紛争	インドのパンジャブ州では、シク教徒とヒンドゥー教徒が対立。一部のシク教徒はインドからの分離・独立を求めている。	バスク分離・独立問題	バスク人はフランス・スペイン国境のビレネー山脈の両側に分布。多くはスペインのバスク地方に住み、スペインからの分離・独立運動が見られる。
	タミル人分離・独立問題	スリランカの北部に住むヒンドゥー教のタミル人が、多民族で仏教徒のシンハラ人と対立し、スリランカからの分離・独立を求めて内戦が続いたが、2009年終結。	コソボ紛争	90%以上がアルバニア系であるコソボ自治州へのセルビアによる弾圧に対し、NATO軍は1999年ユーゴを空爆し、ユーゴ軍を完全撤退させた。2008年に独立を宣言。
	パレスチナ問題	パレスチナにユダヤ人国家イスラエルが建国され(1948年)、アラブ人国家との間に戦争が発生。94年にパレスチナ暫定自治政府(PLO)が樹立されたが、最近情勢悪化。	チェチェン紛争	ムスリムの多いチェチェン共和国はロシアからの独立を求めたが、これを認めないロシアは1994年に軍隊を侵攻させた。96年に停戦合意したが99年に再燃。
南・西アジア	クルド人独立問題	イラン・イラク・トルコなどの国境にまたがった山岳地域にはクルド人が居住。クルド人は自治権を要求し独立を望んでいるが、関係国は強く反対している。	ジョージア(グルジア)紛争(南オセチア紛争)	2008年、親ロシアのアブハジア自治共和国と南オセチア自治州にジョージアが攻撃、ロシアとの戦争に発展した。この地域を通るパイプラインの利権争いも背景にある。
	キプロス紛争	人口の約8割を占めるギリシャ系住民と、トルコ系住民が対立。1974年にトルコ軍が侵攻し、トルコ系住民の住む北部地域が独立を宣言したが、未承認の国が多い。	アメリカ先住民問題	アメリカの先住民(ネイティブアメリカン<アメリカインディアン>)は1960年代より差別への抗議行動を繰り広げ、近年は自治権の拡大などを求めている。
	ブルンジ内戦	ルワンダの隣国ブルンジで、多数派ツツ人と軍部を掌握する少数派ツチ人の間で対立抗争が続いている。	ケベック分離・独立問題	かつてフランスの植民地であり、フランス系住民が大半を占めるケベック州では、分離・独立の可否を問う住民投票が実施されるなど、カナダからの分離・独立運動が見られる。
アフリカ	スーダン内戦	北部のアラブ系ムスリムと南部のおもにキリスト教を信仰する黒人が対立し、2003年頃から西部のダルフール地方ではアラブ系民兵による黒人住民の残虐行為(ダルフール紛争)が発生し、現在も解決していない。また2011年には南部が南スーダンとして独立したが、スーダンとの国境地帯は油田地帯でもあり、その帰属をめぐる対立は解消されていない。	オセアニアアボリジニの土地所有権問題	オーストラリアの先住民であるアボリジニは、政府に対して土地の返還を要求。1992年に最高裁判所はアボリジニの伝統的土地所有権を認めた。
			マオリの先住民権利問題	1840年にワイタンギ条約でマオリの土地所有権は保証されたが、植民地政府および入植者によって土地紛争などが再発。今日、先住民マオリの権利回復が進んでいる。

⑯図法の種類と特徴 [リンク](#) p.6, 7

図法名		特 徵	用 途	図法名		特 徵	用 途
正積図法	サンソン図法	●緯線はすべて等間隔の平行直線で、長さはすべて正しい。経線は、中央経線が直線であるが、ほかはサインカーブ(正弦曲線)である。中央経線と赤道付近のひずみが小さい。	赤道を中心とした地図、アフリカ大陸図	メルカトル図法	●緯線は経線に直交した平行直線で、緯線間隔は高緯度に向かうにつれて大きくなる。経線は等間隔の平行直線。地図上の2点を結ぶ直線は等角航路を示し、この線が経線と交わってなす角を舵角という。	海図	
	モルワイデ図法	●緯線はすべて平行直線で緯度40° 44'の緯線の長さだけが正しく、それより低緯度では実際より短く、高緯度では長い。緯線間隔は高緯度になるにしたがって狭くなる。経線は中央経線のみが直線で、ほかは梢円となっている。	中緯度地方を中心とした地方図	ランベルト正角円錐図法	●緯線は同心円の円弧で、経線は放射直線からなる。中緯度を描くのに適した図法。ドイツ人ランベルトによって考案された図法である。	天気図・航空図・海底地形図・日本全図	
	ホモロサイン図法(グード図法)	●低緯度をサンソン図法、高緯度をモルワイデ図法を用い、両者を緯線の長さが一致する40° 44'で結合した地図。大陸の形のひずみを小さくするために海洋部で断裂させている。	世界全図	正距方位図法	●図の中心の地点からほかの地点への方位と距離が正しく示される。図の中心とほかの任意の地点を結んだ直線は、その2点間の最短コース(大円航路)を示す。また、その直線と図の中心を通る経線とのなす角は図の中心から見たその地点の方位角である。	航空図	
	エケルト図法	●本来は点である極を赤道の半分の長さに描いている。極:中央経線:赤道の長さが1:1:2になっている。	世界全図	ランベルト正積方位図法	●図の中心点からほかの地点への方位が正しく示され、図の中心からほかの任意の地点までの距離(最短距離)もあらかじめこの図法のためにつくられた距離尺を用いて求めることができる。中心から広範囲にわたって形のひずみが小さい。なお、正積方位図法でもあるため、面積も正しくあらわされる。	大陸図・半球図(水半球・陸半球)	
	ポンヌ図法	●緯線は等間隔の同心円で、経線は中央経線を除き、ほかはすべて曲線である。	大陸図・地方図				
	ハンメル図法	●ランベルト正積方位図法の赤道および各経線を2倍の長さの直線にし、全体を梢円形に描いた図法。	世界地図				